



# Ⅲ 平城宮跡等の調査概要

表Ⅲ-1 2012・2013年度 都城発掘調査部(平城地区)発掘調査一覧

調査次数	調査地区	遺 跡	調査期間	面 積	調査地	担当者	調査要因	掲載頁
(2012年度)								
503次	6ALR-G 6ALQ-H	平城宮東院地区	2012.12.17~2013.5.22	1,015㎡	奈良市法華寺町	小田裕樹	学術調査	130
(2013年度)								
505次	6BSD-P	西大寺旧境内(重点地区)	2012.2.12~2013.4.26	262.5㎡	奈良市西大寺小坊町	諫早直人	共同住宅建設	144
510次	6AFJ-H	平城京左京三条一坊九坪	2013.4.1~2013.4.5	33㎡	奈良市二条大路南	松下迪生	住宅建設	161
511次	6BFO-E	平城京左京一条二坊十五坪	2013.4.2~2013.4.8	25㎡	奈良市法華寺町	川畑 純	住宅建設	163
512次	6BFK-G	阿弥陀浄土院	2013.4.8~2013.4.11	36㎡	奈良市法華寺町	松下迪生	住宅建設	165
513次	6ASA-A・B	平城宮北方	2013.4.17~2013.4.25	45㎡	奈良市佐紀町	松下迪生	住宅建設	128
514次	6BFK-F・G	平城京左京二条二坊十五坪	2013.4.23~2013.6.4	461㎡	奈良市法華寺町	神野 恵	住宅建設	167
515次	6AFI-R	平城京左京三条一坊一坪	2013.5.16~2013.5.31	264㎡	奈良市二条大路南	川畑 純	建物建設	173
	6AFJ-Q・P・R	平城京左京三条一坊八坪	2013.11.5~2013.11.29	450㎡	奈良市二条大路南	小田裕樹	建物建設	173
516次	6BKF-E	興福寺西室	2013.6.3~2013.10.11	985㎡	奈良市登大路町	川畑 純 番 光	学術調査	179
517次	6ACD-J・K 6ACF-E 6ABG-L	平城宮中央区朝堂院	2013.8.5~2012.8.29	212㎡	奈良市佐紀町	芝康次郎	建物建設	128
518次	6AGA-A, 6AGC-I	平城京右京一条二坊四坪	2013.7.29~2013.9.13	230㎡	奈良市二条町	神野 恵 馬場 基 箱崎和久	建物建設	189
519次	6BYS-M	薬師寺十字廊	2013.9.17~2014.2.28	872㎡	奈良市西ノ京町	庄田慎矢	学術調査	191
520次	6ABQ-H	平城宮第一次大極殿院	2014.1.7~2014.3.18	476㎡	奈良市佐紀町	海野 聡	学術調査	142
521次	6BSD-P・Q	西大寺旧境内(重点地区)	2013.12.3~2014.2.7	396㎡	奈良市西大寺小坊町	小田裕樹	住宅建設	144
522次	6AFJ-Q・P・R	平城京左京三条一坊一坪	2013.12.16~2014.3.28	1,953㎡	奈良市二条大路南	山本祥隆	建物建設	173
523次	6SNY	中山瓦窯	2014.1.21~2014.2.10	135㎡	奈良市中山町	石田由紀子 川畑 純	建物建設	128
524次	6BFK-E	平城京左京二条条間路	2014.2.3~2014.2.18	48㎡	奈良市法華寺町	青木 敬	宅地造成	128
525次	6BKA-C	海龍王寺境内	2014.2.19~2014.2.28	30㎡	奈良市法華寺町	青木 敬	建物建設	128
526次	6BFO-C・D	法華寺旧境内	2014.3.6~2014.3.18	30㎡	奈良市法華寺町	青木 敬	住宅建設	128

表Ⅲ-2 2013年度 都城発掘調査部(平城地区)小規模調査等の概要

調査次数	遺 跡	調 査 の 概 要
513次	平城宮北方	個人住宅建設にともなう調査。東西9m、南北5mの調査区を設定した。地表下約40cm(H=78.5m)で地山を検出し、地山上面で遺構を検出した。調査区北壁際で東西長約3.5m、深さ約0.5mの性格不明の土坑を検出し、埋土下半から奈良時代の軒平瓦や15世紀後半~16世紀前半頃の羽釜が出土した。その他、調査区西辺では近世の耕作に関わるとみられる南北小穴列2条を検出した。
517次	平城宮中央区朝堂院	調査は中央区朝堂院東北部(A区)、同西南部(B区)および第一次大極殿院西南の2ヵ所(C南北区)でおこなわれた。A区では、H=65.3mの地山上の木屑を含む砂層で奈良時代の瓦だまりを検出した。遺構検出面が西側の朝堂院建物群の検出面よりも約1m低く、堆積土が砂質であることから小さな谷地形に落ち込んだ流路由来の瓦だまりと考えられる。B区では、自然流路のみを検出し明確な遺構は検出されなかった。C区では、南北区ともにH=67.2~3m付近で小穴および溝状遺構を検出した。
523次	中山瓦窯	個人住宅建設のための擁壁工事にともなう事前の発掘調査である。調査地は1972年に7基の瓦窯が調査された地区のすぐ北方に位置する。調査の結果、奈良時代の瓦窯を3基検出した。いずれも窖窯である。1基は大きく攪乱を受けているものの焚口から煙道までを検出した。他の2基は一部が調査範囲外におよぶものの、それぞれ焼成室から煙道にかけての範囲と、燃焼室から焼成室にかけての範囲を検出した。灰原や窯本体からは奈良時代前半の軒瓦や鬼瓦が出土した。
524次	平城京左京二条二坊十四坪	宅地造成にともなう事前調査で、東西3m、南北16mの調査区を設定した。現地地表下1.2mで奈良時代の遺構面を確認し、素掘りの東西溝2条、掘立柱列2条などを検出した。このうち、北側の東西溝は二条条間路南側溝と考えられる。また、南側の東西溝は奈良時代前半の所産とみられ、木簡・木製品・土器・瓦などが出土した。
525次	海龍王寺境内	写経道場新築にともなう事前調査で、東西3m、南北10mの調査区を設定した。現地地表下0.3mで遺構面を確認し、海龍王寺西回廊の西縁部や、中世以降の所産とみられる建物や土坑などを検出した。西回廊は、地覆石がなく凝灰岩製羽目石を直接据え付けていたと考えられる。基壇外装の0.3m西側で乱石組雨落溝の残欠を検出し、これらの調査成果から従来の回廊復元案を追認した。
526次	法華寺旧境内	共同住宅新築にともなう事前調査で、東西3m、南北10mの調査区を設定した。現地地表下0.4mで遺構面を確認し、東二坊坊間路東側溝と考えられる素掘りの南北溝や、中世以降とみられる小規模な南北溝などを検出した。東二坊坊間路東側溝は幅0.6m以上、深さ0.4m以上、調査区東側へ広がることを確認した。

表Ⅲ-3 2013年度 都城発掘調査部(平城地区)現場班編成 ※総担当

春	夏	秋	冬
小池 伸彦(考古第一)	芝 康次郎(考古第一)	※庄田 慎矢(考古第一)	青木 敬(考古第二)
神野 恵(考古第二)	石田由紀子(考古第三)	小田 裕樹(考古第二)	渡辺 丈彦(考古第三)
※川畑 純(考古第三)	渡辺 晃宏(史料)	馬場 基(史料)	※山本 祥隆(史料)
松下 迪生(遺構)	※番 光(遺構)	箱崎 和久(遺構)	海野 聡(遺構)
		三好 勇太(香川県綾川町:研修)	諫早 直人(考古第一:藤原)
			大澤 正吾(考古第二:研修)
			三好 勇太(香川県綾川町:研修)
統括:副所長 小野 健吉		写真担当:企画調整部写真室	